



令和 8 年 4 月 13 日  
国土交通省関東地方整備局  
鬼怒川ダム統合管理事務所

## 鬼怒川ダム統合管理事務所 令和 8 年度事業の概要

～水を利用し、水から守る。人々の生活を支えるダム管理～

令和 8 年度鬼怒川ダム統合管理事務所主要事業の概要をお知らせいたします。

利根川水系では、「令和の大改修」と銘打ち、令和元年東日本台風によって堤防天端（ていぼうてんば）から約 1m まで水位が上がるなど既に顕在化している気候変動に対応すべく、河道（かどう）対策と、既存ダムの有効活用や中止ダム予定地の活用、砂防施設の整備などの上流対策を強力に推進し、治水安全度（ちすいあんぜんど）の早期向上を目指します。

鬼怒川ダム統合管理事務所は、五十里（いかり）ダム・川俣ダム・川治ダム・湯西川ダム及び、鬼怒川上流ダム群連携施設の 5 つの施設を一体として運用する「統合管理」を行っています。

令和 8 年度の実業は、5 つの施設が正常に機能するために、機器の老朽化対策など堰堤維持費「約 21.4 億円」（注）により施設の点検及び修繕等を行います。

また、堰堤改良費「約 2.0 億円」（注）により川俣ダム両岸の岩盤モニタリング及び左岸工事用道路（トンネル）の建設工事、並びに川治ダム堆砂対策の検討を行います。

また、ハイブリッドダム（湯西川ダム）などカーボンニュートラルに寄与する取り組みを進めていきます（別紙 3）。

なお、これまでの知見や最新の技術を活用した柔軟なダム操作による危機管理型の運用（ダムの事前操作）や地域活性化にも引き続き取り組みます（別紙 4、5）。

（注）金額には、工事諸費等は含みません。

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 栃木県政記者クラブ  
宇都宮市役所記者クラブ 日光記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 鬼怒川ダム統合管理事務所

電話：028-661-1341（代表） FAX：028-661-7742

副所長 永井（ながい）（内線：204）

管理課 課長 城田（しろた）（内線：331）

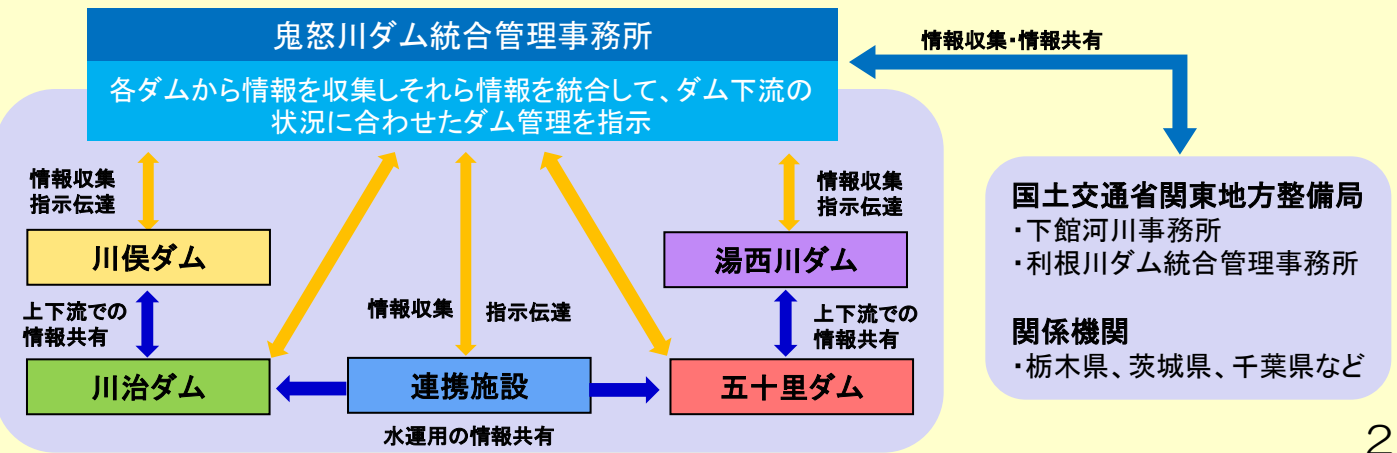
# 鬼怒川上流ダム群の統合管理

鬼怒川は、栃木県と群馬県の県境にある鬼怒沼を水源として、栃木県日光市川治温泉地先において男鹿川をあわせ南下し、さらに大谷川、田川などの支川を合流して関東平野を潤し、茨城県守谷市において日本最大の流域面積を誇る利根川に流れ込みます。



鬼怒川上流部には、五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダム及び五十里ダムと川治ダムとを結ぶ鬼怒川上流ダム群連携施設があります。そこで、4つのダムプラス連携施設の機能を最大限に活かすため、各ダムの能力、位置関係、流域の地形的条件、降雨等の気象特性などを十分に把握し、これらの情報を統合して鬼怒川の高水（洪水）、あるいは低水（利水）管理を行うものです。

ダム群を統合管理するため、気象や貯水位等に関する情報を各種の無線回線を介してダム管理用制御処理設備（ダムコン）へ収集し、情報の演算処理（予測計算）等を行い適切なダム管理を進めています。



## 《施設の長寿命化対策》

### ①施設の点検整備

ダム堤体、ゲート設備、電気通信設備などダム施設の点検整備を行い、洪水時や利水補給時の操作に万全を期すとともに、施設の長寿命化を図ります。また、施設の損傷を防止するため、ダム湖に流れ込んだ流木の回収を継続的に行います。



ゲート点検



サイレン設備点検



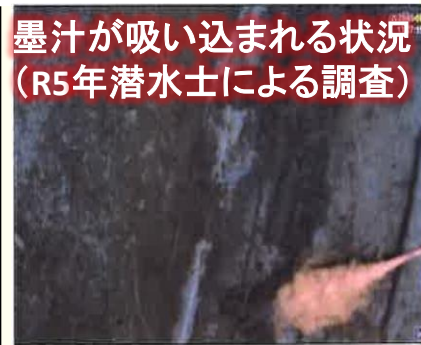
流木回収

### ②堤体漏水対策 (湯西川ダム)

湯西川ダムでは、ダム本体工事中に漏水対策済みだが、平成28年渇水後から漏水量が増え、貯水位に比例しない不安定な挙動を示すようになった。そのため、専門家に相談した結果、吸い込み箇所の調査を行う必要性を指摘されたことから、ボックス調査により漏水調査を行う。またJ20継目は、過年度に漏水対策を行ったが、依然として漏水が継続している。そのため、新たな漏水対策に向けた設計検討を行う。



湯西川ダム



墨汁が吸い込まれる状況 (R5年潜水土による調査)

### ③主放流設備修繕 (川俣ダム)

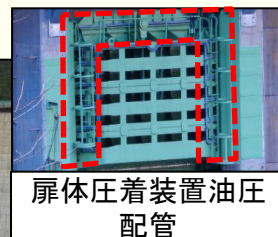
主放流設備(コンジットゲート)は、ダム堤体中の下部に設置されている洪水調節用の大容量の高圧放流設備で、ダムの洪水調節や下流への放流を行う際に使用する重要な設備です。

動作不良といった不具合を未然に防止するため、主放流設備(コンジットゲート)のうち、配管などの更新を行います。



コンジットゲート

川俣ダム



扉体圧着装置油圧配管



水密ゴム圧着装置 (加圧ユニット)

## ■川俣ダム

川俣ダムでは、令和7年度よりダムの支持地盤としての機能を確保することを目的として岩盤PS(プレストレスト)アンカー工の補強工事に着手しています。

今年度は、川俣ダム両岸の岩盤について、継続しているモニタリング(岩盤変位やひずみの計測)の解析を行います。また、補強工事で使う工事用道路(トンネル)建設工事に着手します。

岩盤PS(プレストレスト)アンカー工の補強箇所(赤丸)



工事用道路(トンネル)建設予定箇所(黄色点線)



## ■川治ダム

川治ダムは、上流域からの土砂供給量が多く、現在計画堆砂量を上回る量の土砂が貯水池内に堆砂しています。そのため、既に貯砂ダムの設置や堆砂掘削などの堆砂対策に取り組んでおり、引き続きより効率的な堆砂対策の検討を行います。



掘削・積込作業

運搬作業



## ①ハイブリッドダムを取組(湯西川ダム)

湯西川ダムでは、引き続き水力発電施設の新増設(民設民営)の事業化に向けた検討を進めます。

<ハイブリッドダムとは>

治水機能の強化、水力発電の増強のため、気象予測も活用し、ダムの容量等の共有化(例:利水容量の治水活用(事前放流等)、治水容量の利水活用(運用高度化)。)などダムをさらに活用する取組のこと。



## ②管理用水力発電所(川治・湯西川・五十里ダム)

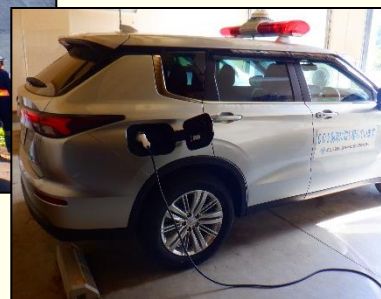
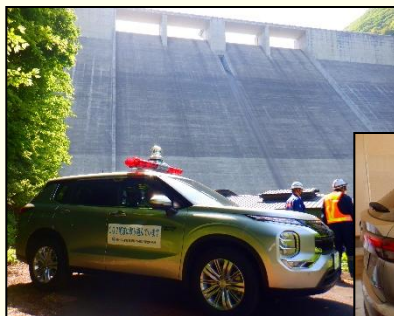
川治ダム及び湯西川ダム管理支所で使用する電気の一部は、保有する管理用水力発電所にて発電した電気を有効活用しています。また、五十里ダム管理支所でも、栃木県企業局が管理する「五十里発電所」で発電された電気の一部を有効活用しています。



## ③プラグインハイブリッド車(湯西川ダム)

湯西川ダムでは、ダムの巡視などに活用する警報車に、関東地方整備局で初めてプラグインハイブリッド車を採用しています。

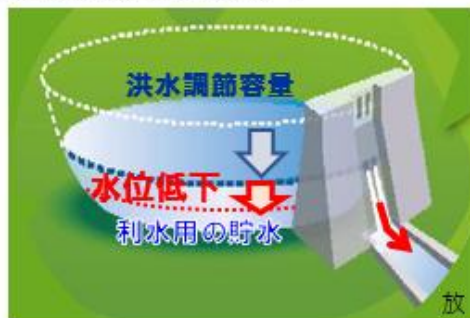
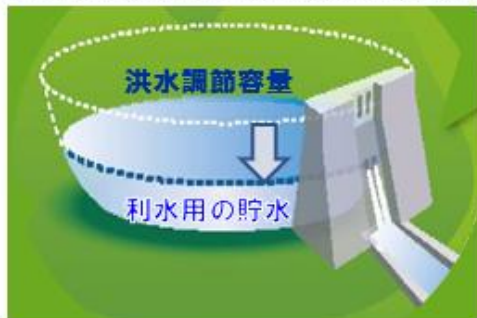
この警報車は、湯西川ダムの管理用水力発電所で生み出される電気を活用して走行し、環境に寄与しています。



ダムの事前放流は、洪水被害の防止・軽減を目的としており、想定を超える大雨が予想される場合に、事前にダムの貯水位を下げて、より多くの洪水を貯めることが出来るようにするものです。

※事前放流では、雨が降り始める前など、晴天時からダムの放流を始めることがあり、ダム放流を開始する前には、サイレンを鳴らしスピーカーで放送等を行います。放流により増水するため、事前放流が行われている時は、川から離れ、川に近づかないようにして下さい。

● 利水用の貯水を放流して、空いた容量を一時的に洪水調節に利用します。



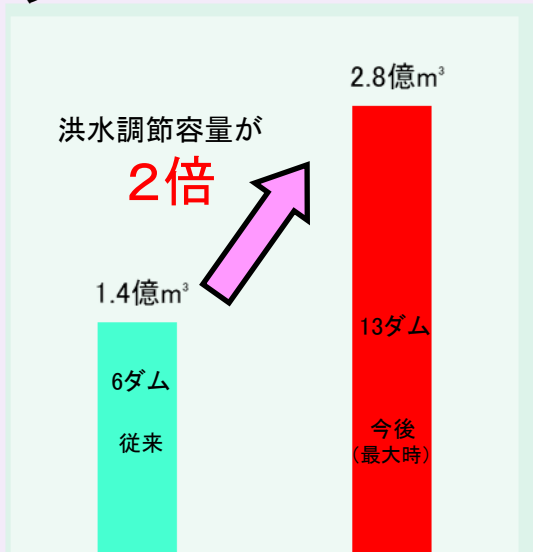
◎ 現状で、多目的ダムは、洪水期(夏～秋)に洪水調節容量を確保します。利水ダムは、年間通して洪水調節容量を持ちません。



ダムの事前放流イメージ



事前放流実施ダム位置図(鬼怒川流域)



鬼怒川におけるダムの洪水調節容量 6

## 鬼怒川上流ダム群水源地ビジョンの概要

### 水源地域の将来像

『人・水・温泉 わくわく鬼怒川水源郷』

### 水源地域ビジョンを進めていく基本方針

- 基本方針1 地域の“宝を磨いて”活かす
- 基本方針2 流域の“つながりを深める”
- 基本方針3 みんなが愛する“きぬがわブランド”を育む

### 対象地区

ダムと関連する鬼怒川上流地域の5つの地区（川治地区、三依地区、川俣地区、日向地区、湯西川・西川地区）を対象に「水源地域ビジョン」の行動計画（アクションプラン）を作成しました。

また、4つのダムが連携して水源地域の活性化を進めるための全体アクションプランも設けています。

### 推進体制

水源地域全体を包括する組織として「鬼怒川上流ダム群水源地域ビジョン推進協議会」及び地区ごとの取り組みを推進する組織として4ダムごとの「ダム部会」が設置されています。



## 令和8年度に水源地域で実施予定の取り組み

### 五十里ダム環境放流 (3月～11月までの月1回予定)



### 鬼怒川上流4ダム見学会 (9月予定)



### 水生生物調査、河川清掃 (7月予定)



### ダムライトアップ (秋頃予定)



### アニバーサリーイベント (アニバーサリーカード配布 4月～3月まで) (ダム印配布 8月)



いかり



かわま



ゆにしー



かわじ

キャラクターは、水源地域ビジョンの中でダムのブランド化を手伝うために登場しました。4人そろって“キヌダム4姉妹”です。